

10/1掲載 あしすと健康アドバイス

胆のう結石症について

消化器内科

胆のう結石症は胆のうに胆石ができる病気です。脂肪に富んだ食事をした後に上腹部痛、吐き気などの症状が出ることも多いですが、約半数の方は無症状に経過します。発熱や黄疸を伴う場合には急性の胆管炎や胆のう炎を併発して重篤な状態になる恐れがあり、緊急の治療が必要です。胆のう結石症の治療は、腹腔鏡を用いて胆のうごと摘出する手術が一般的です。無症状であれば基本的に治療の必要はなく経過観察となりますが、若年者、小さな結石が多数ある方、胆のう管に結石がある方、胆のうの壁が厚くなっている方などでは症状が出現する可能性が高いとされています。胆石の種類や大きさ、胆のうの状態によっては内服薬で胆石を溶解する治療や、体外衝撃波で胆石を小さくする治療が効果的な場合もあります。

岡本 博司 さん
国吉病院 消化器内科部長



ですが、胆石を確実に除去できるとは限らず、再発しやすいという問題がありますので専門医によく相談されることをお勧めします。